



令和元年度 SIP 第 2 期 臨時課題評価結果

令和元年 6 月 27 日

ガバニングボード決定

平成31年2月28日のガバニングボードにおいて「A」評価より低い評価を受けた以下の4つの課題について、今般、ガバニングボードの決定に基づき「S I P第2期課題評価ワーキンググループ」（座長：須藤亮 内閣府政策参与・S I Pプログラム統括）において再評価を実施した。

**【再評価対象の課題名】**

- ◎ 「ビッグデータ・A I を活用したサイバー空間基盤技術」（安西P D）
- ◎ 「フィジカル空間デジタルデータ処理基盤」（佐相P D）
- ◎ 「スマートバイオ産業・農業基盤技術」（小林P D）
- ◎ 「脱炭素社会のためのエネルギーシステム」（柏木P D）

再評価の目的は、上記4課題について、本年2月の評価における指摘事項を踏まえて、研究開発内容や体制等が適切に見直され、その結果、前回と同様の評価項目で再評価した結果、平均以上（すなわち、「A」評価以上）に達しているか否かを確認するものである。

なお、上記4課題に対して配分予定の本年度予算のうち、現在、配分を留保している予算（各課題の全予算額の半分相当）については、今回の再評価において「A」評価以上に達していることをもって配分することとする。

ガバニングボードは、「S I P第2期課題評価ワーキンググループ」の再評価結果を基に、上記4課題の再評価結果を以下のとおり決定する。

## 再評価結果

課題名	スマートバイオ産業・農業基盤技術
PD名（※敬称略）	小林 憲明

### I. 総合評価結果

平成30年度課題評価では、主として、課題全体として、総花的であり、研究開発テーマの重点化及び見直しを進めることが必要であると指摘されたことを踏まえ、小林PDのリーダーシップの下、テーマの選択と集中を行った結果、テーマ間の連携や出口戦略が明確になった点は評価できる。

他方、農業のスマート化をSIPで取り組む以上は、農林水産省で閉じない実効的な府省連携が必須であり、また、成果の社会実装のためには、農産品に係る従来の商慣行や商流を抜本的に変えていくような制度革新も併せて取り組むことが重要である。この点は本課題に参画する関係府省も含め十分留意することが必要である。

総合評価

A

### II. 主な指摘事項

- 本課題を遂行する上で度々取り上げられる「WAGRI」（SIP第1期の成果）の利用状況・効果等を検証すべきである。ガバニングボード及び課題評価WGでも利用状況等について、改めて確認することとしたい。
- スマートフードチェーンの実用化・事業化に向けて、農家、農協、コンビニエンスストア、大手スーパー、消費者団体等、多様なプレイヤーとの対話、連携をより強化していく必要がある。
- 我が国農業のスマート化に貢献するよう、野心的な目標を掲げて研究開発を進めてもらいたい。
- 国内で閉じた議論が多く、グローバル展開という観点が全体的に希薄である。  
また、知財戦略や国際標準化戦略等の出口戦略はもっと検討すべきではないか。
- SIPの他の課題（分野別データ基盤連携（ビックデータ・AI）、自動運転、スマート物流等）との連携を強化し、SIPとして二重投資にならないよう、効率的な研究開発を行うべきである。

（以上）